



森が人をつなぐ山形県 最上町

活動の継続が育む 最上町の緑と笑顔



「回帰の森」 森づくり活動事業

貴重な里山広葉樹林と動植物を有する「回帰の森」は、自然環境学習や森づくり活動の場として利用されています。本城まもり隊の皆さんは、小学生や町民の皆さんが散策を楽しむ里山林の遊歩道等の修繕や保全活動に熱心に取り組んでいます。



「志茂の手楯」 整備事業

志茂の地域の方々が「楯山」と呼ぶ「志茂の手楯」は、祈りの山として、また自然豊かな癒しの山として親しまれてきました。近年この楯山の城主の存在が明らかになったことで、観光に訪れる人もおり、地域の人々の関心が高まってきました。そこで、最上町歴史ロマンをほっする会の皆さんが、地域の裏山である楯山を健全な里山林として景観を維持するだけでなく、年配の方でも登れるように整備保育を行いました。

市町村里山再生アクションプラン事業



もがみの木質資源利活用推進事業

従来山に残してきた間伐材を、貴重な森林資源として学校や地域での学習教材やイベントで有効に活用してもらい、木質資源の活用方法を広く町民等に伝えることで木材の利用拡大を図りました。

地域提案事業 〔市町村提案型〕



最上町森林資源利活用システム学習事業

向町小と大堀小の児童とあたごこども園の子どもたちが、町と株式会社もがみ木質エネルギーが取り組む森林資源利活用システムの学習会に参加し、間伐現場での伐採見学やスギ苗の植え付け作業、バイオマスボイラの見学をしました。子どもたちは、普段見る機会のない木の伐倒作業や高性能林業機械の迫力ある動きを興味深く観察し、真剣な表情で説明に聞き入っていました。子どもたちはこの体験を通して、森林の持つ多面的な機能や自然環境の保全・森林整備の大切さを学びました。



前森里山保全と親子森林ふれあい教室事業

最上町森林愛好会が、植栽した広葉樹の保育活動に取り組み、里山保全活動を行いました。



「白川桜の散歩道」 保育・整備事業

子供たちの森林環境学習と地域住民の癒しの場の提供を目的として、植栽した桜の保育活動等に親桜会が取り組みました。



「木の駅@もがみ」 森林資源の活用

「木の駅@もがみ」は、町内の皆さんに間伐材などを気軽に出荷できる受け皿を提供することで、もう一度所有者自らが山に目を向け、山をきれいにし、有効活用してもらうことを目指しています。集めた間伐材は、バイオマス燃料として利用し、新たなエネルギーの地産地消モデルの創出を目指しています。「木の駅@もがみ」を運営するもがみ地産地消エネルギーは、薪割り＆焚き火体験会等も継続的に開催し、木材の利用拡大と促進を図っています。



「花の鶴橋」 花の山づくり活動事業

鶴橋は、万騎ノ原合戦の武功により当地を与えられた小国日向守が、本城小国城の分橋として築城したもので、その城下を本城に倣って「下小路」「立小路」と命名しました。鶴橋の遺跡を両集落の象徴として今後も大切にしていきたいために、花の鶴橋を創る会が、桜とカエデを植樹しました。



奥羽山芭蕉の森「里山文化の継承の森づくり」

緑を愛する会は、堺田奥羽山を芭蕉の森と名づけ、森づくりを通して人と人との絆を育むことを目的に本事業に取り組み、作業道の整備や植樹活動、森林学習の開催などの森づくり活動を行っています。今年度は、大堀保育所の子どもたちと一緒に、炭焼きやきのこの植菌活動に取り組みました。今後も「芭蕉の森」で森林学習や森づくり活動を継続的に行うことで、里山再生や地域づくりに取り組んでいきます。

